神に称賛される私たちの生き方

あり方を捨てる ~光として輝け!喜びの実~ ピリピ 2:13~16

意識しない中で受ける影響

サッカーや野球の試合でホームとアウェーとでは、ホームでの勝率が 圧倒的に高いそうです。どうしてホームゲームの勝率が高くなるのかシ カゴ大学で研究が行われました。その結果、応援の力や移動距離が有利 である事よりも大きな影響があったのが審判の誤審でした。審判はどの ように影響を受けるのでしょうか?それは、集団圧力によるという研究 結果が示されました。公平にジャッジする事を求められる審判も、観客 からの集団圧力に影響されるため、ホームチームに有利な判断をしてし まうというものでした。

聖書の中にもこれと似た状況がありました。ピラトによるイエス様へ の裁きです。ピラトはイエス様に罪のないことがわかっていました。し かし、暴動をも辞さないパリサイ人や群衆に影響されて誤った判決を下 してしまいました。

このように私たちは意識しない中にもいつのかにか周囲の影響を受けて いることがあります。

■志を立てさせてくださる神

沢田喜美というクリスチャンの女性がいました。彼女は三菱財閥の創 業者である岩崎弥太郎の孫娘として生まれ、外交官の沢田廉三と結婚。 4人の子に恵まれます。第二次世界大戦後、在日米軍将兵と日本人の間 に生まれ混血孤児を支援し育てる働きに一生を捧げます。

外交官の夫と共に海外での生活を送る中、イギリスで先進的な孤児院 を目の辺りにし、衝撃を受けます。しかし彼女が自ら混血孤児の支援を しようと決心したのにはきっかけがありました。終戦後の混乱期に買い 出しのため列車に乗った時に、闇市の摘発のために警察官が乗り込んで きました。喜美が座っていた座席の上にある風呂敷包みに目をやった警 察官は、それをあけるように喜美に命じます。その包みを開けると、中 から数枚の新聞紙にくるまれた赤ちゃんの遺体が出てきました。そして その肌は黒かったのです。この出来事があってから、彼女の中に混血孤 児のために人生を捧げる志が与えられました。

『あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは 神であるからです。』(ピリピ2章 13 節 新共同訳)

沢田喜美さんの場合は人種差別によって失われた人生がきっかけとな り、その後、多くの人に対して救いをもたらす人生を捧げる志が与えら れました。その志を成し遂げるために仕え奉仕する生き方を選んだので す。奉仕とは私たちの人生そのものです。生きる事が奉仕であり、私た ちの人生が一度死んでもう一度生きる事を選ぶ事が奉仕です。沢田喜美 さんは孤児院を開いてから、子ども達の生活を支えるために自分の服や 宝石を売ってミルク代に当てたそうです。今まで生きてきた人生とは全 く違う生活になりましたが、その働きのおかげで 2000 人の孤児が救わ わました。

種を蒔く行為は犠牲を伴うものです。食べ物がないとき、春に蒔くた めにとっておいた種を食べてしまえば、その時は生きる事ができますが、 次の年には食べ物がなくなってしまいます。だから飢えに苦しみながら も春に蒔く種を残しておきました。その苦しみを越たからこそ収穫の喜 びを得ることで出来ます。

志は神から与えられている

私たちの内に神様は志を与えておられます。沢田喜美さんは外交官で ある夫と供に、広く海外の状況を知る機会を与えられていました。そして、 その生活の中で孤児院についても非常に詳しい知識を得ていました。イ ギリスでは孤児院にお手伝いする体験も積んでいたのです。この頃から 神様の種はすでに彼女のうちに蒔かれていました。それが芽を出すきっ かけが列車の中での出来事だったのです。

私たちの中には神様によって志が与えられています。そして、それが芽 を出すきっかけは悲劇のように思われる事が多いのです。しかし、私た ちはそのことを悲劇だとは捉えません。イエス・キリストの十字架を知っ ている私たちは、その出来事を御心であると信じて受け入れる事ができ るからです。

志を成し遂げるためには

私たちが神から与えられている志を成し遂げるために必要なものは何で しょうか?

『何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。』(ピリピ2章 14節 新共同訳) 『すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。』(ピリピ 2章 14 節 新改訳第三版)

疑わない、つぶやかない、理屈を言わない。聖書にはその様に記してあ

私たちは「意味」「栄光」「永遠」を求めています。

- ・自分がやっている事には何の意味があるのだろうか?
- ・人々は自分を賞賛してくれるだろうか?
- ・永遠に生きられるだろうか?

罪によって人は、生きる意味、神からの栄誉、永遠の命を失ったので、 それを求めてしまいます。そして、自分の人生の意味を求める中でつぶ やいたり疑ったりしてしまいます。意味が見いだせないと不平や理屈を 言ったりするのです。私達は意味を見出せないと嫌な思いになり、「無駄」 と思うようになったりします。理屈はこの世のルールであり、「無駄」 とう言葉に影響を受けています。しかし、聖書はつぶやかないように語 りかけます。疑わないように、理屈を言わないように私たちに語りかけ ているのです。私たちは疑ったり、つぶやいたり、理屈を言ったりする ことをやめなければなりません。

ダビデはサウロに追われていたとき、サウロを殺す事のできるチャン スがありました。しかし「神が立てた王を手にかけてはならない」といっ てサウロに手を下すことをしませんでした。ダビデは神に愛された者と して自分の働きに生きたのです。神に愛されたから、神の愛する者を重 んじようとしたのです。ダビデはサウロに命を狙われて追われていたと きも、そのことで人々につぶやくようなことはしませんでした。神を疑 うこともありませんでした。自分の正しさを訴えるために理屈を並べる こともしませんでした。

良い行いと悪い行い

自分自身の行いをもう一度、振り返ってみましょう。良い行いの中に あなたの「意味」「栄光」「永遠」を求める心はないでしょうか?また、 悪い行いの中にも善があります。神様はその両方から善を引き上げて下 さいます。

だからこそ、偽善者になってはいけません。自分を聖いと思わず、い つも目を覚まし自分の中の汚さを見つけて、弱さを認めて罪を悔い改め ましょう。

それと同時に、自分の心に浮かんだ志を自分がどんな状況であれ、信じ て行うものとなりましょう。

まとめ…

実を結ぶ人生を生きるためには、何事も疑わず、つぶやかないようにし なければなりません。それは傷のない神の子となるプロセスだからです。 今あなたが見ている現実の中で、自分に弱点や弱さがあったとしても、 ダメだと言って諦めてはいけません。

パウロはイエス・キリストに出会って自分の人生を真逆に生きるように なりました。イエス・キリストを迫害する生き方が、イエス・キリスト を褒め称え宣教する意人生へと変えられたのです。その生き方はその時 の常識では考えられないものでした。

しかし、その常識を捨てて新しい人生に踏み出した人がいたからこそ、 今の時代があるのです。

なぜだと疑う思い、どうしてと意味を見いだそうとする思い、死にたく ないという思い、それらはイエス・キリストに近づくことで消えていき ます。神様はあなたを愛しています。今行っている事は、神様が成させ ています。キリストの十字架を引き継いでいる私達には、すでに意味が あるのです。だからこそ、誰からどんな影響を受けようとも、私達はそ れを避ける事ができるのです。

『いのちのことばをしっかり握り、彼らの間で世の光として輝くためで す。そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したこ とも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。』 (ピリピ2章16節 新改訳2017年版)

イエス・キリストに近づき、実を結びこの世で輝くものとなりましょう。

(要約者: 日名 洋)